

(様式第4号)

上田市地域情報化推進委員会 会議概要

1	審議会名	上田市地域情報化推進委員会
2	日 時	平成 26 年 2 月 28 日(金曜日) 午後 1 時 00 分開会
3	会 場	上田市役所 本庁舎 3 階 第 1 応接室
4	出席者	高橋進 会長、宮島仁一 副会長、山本幸恵 委員、 長谷川はるみ 委員、中澤信敏 委員、原有紀 委員、小駒はるみ 委員 【欠席委員】小山陽三 副会長、中沢利樹男 委員、斉藤美穂 委員、 井出正義 委員
5	事務局出席者	手塚 課長、嶋田 係長、山田 係長、 佐野 統括主査、坂口 主事、宮下 主事
6	公開・非公開等の別	公開
7	傍聴者 0 人	記者 0 人
8	会議概要作成年月日	平成 26 年 3 月 5 日(水曜日)

協 議 事 項 等	
1	開 会 (広報情報課長)
2	あいさつ (高橋会長) 今回はアクションプランについてご意見をいただくということになっている。 また、長年の懸案事項である情報プラザについても事務局より説明がある。 委員の皆様からは忌憚のない意見をいただきたい。
3	議 事 (以下、会長進行) (1) 第二次上田市情報化基本計画及び上田市情報化アクションプランについて (事務局) 「資料 1」及び別紙「アクションプラン進捗状況調査票」を用いて説明。アクション プラン進捗状況表は各担当課へ現在の状況を調査したものである。前回先送りとなった 検証事項の項目設定と方法について、事務局案を提示する。この案をもとに今後の評価検証 の項目・方法の決定をお願いしたい。 今回項目を設定し、評価検証のスケジュールは平成 26 年度の 4 月～6 月に持越して評価 したい。 また、第二次情報化基本計画は平成 27 年度までとなっている。来年度(平成 26 年度) は、第三次情報化基本計画の策定も視野に入れて評価検証をお願いしたい。 (会長) 24 年度懇談会で設定された 4 項目について説明をお願いしたい。 (事務局) 4 項目について別紙 3-6 を用いて説明。該当項目の事業内容や予算・目標、課題を まとめたものである。 この 4 項目は懇談会時の委員の意見を取り入れて選定した。 (会長) 達成度は指標・目標値のみで判断されているのか。 質についての評価はされているのか。 (事務局) 基本的に定量的な指標・目標値で評価されている。 (委員) 別紙④「情報通信機器の充実について」懇談会の議論において、教育現場の情報通信機器 は一律に同じものではなくても良い(パソコンだけではなく、タブレットもあり)という 意見があったと思うが、どうなったのか。

(事務局)

教育委員会では現在タブレットの導入を検討しているところである。

(副会長)

アクションプランの成り立ちの説明をお願いしたい。

(事務局)

アクションプランはもともと各課で推進している事業のうち、情報化に関するものを網羅したものとなっている。このため、情報通信技術を用いてこういう市にしたいという観点からすると外れている面もある。

(副会長)

情報化基本計画についても教えてもらいたい。

(事務局)

IT が成長してきたのはここ数十年である。当時は機器も高価であったため、市が整備するシステムに優先順位を付ける必要もあったことから情報化基本計画が策定された。その流れが今日まで続いており、ハード整備といった項目が中心となる計画になっている。

(副会長)

今の時代情報化の流れは速い。情報化基本計画にはコンピュータのリテラシー(利用能力)や市民への IT 教育、利便性の向上など網羅的に記述されており、この中で何を評価するのか決定するのは難しい。もともと情報化というのは中央官庁の結びつきも強いものであり、その中で、地域の情報化計画、とりわけ「上田市の情報化計画」を作るには、何をどうしたいのかというのが見えてこないと難しい。

「上田市らしい情報化」について、大きな柱を決め、どれを重点的に行うのかを考えるべきではないか。

(事務局)

第三次計画では各課の事業を列挙しただけのものではない計画の策定を考えている。

しかし、第二次計画の項目の中には第三次計画に繋がる項目もあるため、今回は全 52 事業の中から重点項目をいくつか取り上げ、評価していただき、結果を第三次計画に反映させていきたい。

(副会長)

このアクションプランは視点がわかりにくい。電子市役所を作るための庁内の IT 化といった視点、市民にとっての教育や健康といった視点、上田市をアピールするための産業、観光といった視点等が考えられるが、アクションプランの項目分けの前に、どの視点からのアクションプランなのかということを、時間があればそこから議論したほうが良いのではないか。

また、現在の進捗状況が担当課の自己評価で提出されているが、これは全く意味がない。第三者機関が評価するようなシステムも必要である。

(会長)

今の発言については、評価や次期計画策定の際に念頭に置き、今後に反映させていけば良いのではないか。

今回は事務局からの資料を基に評価を行う方法が良いのではないか。

(委員)

資料進捗状況が取り組み内容と変わっている部分はないか。

(事務局)

基本的には変わっていない。

(委員)

情報プラザの整備の内容はどうか。データベース設置という記述は元からあったか。

(事務局)

情報化基本計画に記述はある。ただし、策定委員会からの答申の後、成案までのプロセスの中で、修正が間に合ったものについては当初の策定委員会の記述とは異なっている場合がある。

(会長)

事務局案の評価検証方法について説明してもらいたい。

(事務局)

事務局案として全 52 事業から重点項目をいくつか選んでいただき、その項目について、担当課を呼びヒアリングを行うという方法での評価を考えている。

(会長)

懇談会で選んだ 4 項目、またはほかの項目について何か意見はあるか。

(委員)

この 4 項目はその後内容が充実されてきているものもあるため、今後の評価からは外し、他の項目を新たに追加するのも良いのではないか。

項目 16「メール配信システム」及び項目 8「地域防犯情報の提供」について、地域防犯情報の提供の中で、特殊詐欺被害防止の啓発が 2 回行われたとのことだが、少ないのではないか。県警のホームページでは上田市の特殊詐欺の状況が年間 15 件以上公開されている。何の情報をもとにメールの配信を行ったのか。

(事務局)

県警からの依頼（情報）をもとにメールを配信した。

(委員)

達成度も「A」となっているが、メール配信の情報についても見直してもらいたい。また、委員会で評価する項目に項目 6「デジタル移動通信システム（防災行政無線）の運用」と項目 7「防災・災害情報の提供」を追加したい。

先日の大雪でどれだけ活用できたのか確認し、将来に備えるべきである。加えて、項目 6にあるが、「自治会長」に災害時の対応を任せるのは難しいのではないか。スペシャリストの設置等の見直しも必要ではないか。

上田市も緊急対応としてツイッターを用いて情報発信も行っていたが、道路の状況や映像が発信できていれば市民への情報発信はより良いものとなるのではないか。

今後の見通しが示せるような情報や長野国道事務所やケーブルテレビで確認ができる道路状況等をホームページ、ツイッターにより発信することで市民に安心感を示してほしい。

ツイッターは上田市からの一方的な配信ということで運用されていたが、県や市町村との連携や市民からの情報を収集するような使い方も検討してはどうか。

また、災害発生時にスマートフォン等で上田市のホームページにアクセスしても非常につながりにくく、PDF はアクセスしにくい。正確な情報を必要とする災害発生時に、ツイッターは情報伝達が行いやすいツールであるため、活用を検討してはどうか。

(会長)

項目 6「デジタル移動通信システム（防災行政無線）の運用」と項目 7「防災・災害情報の提供」について他に意見はあるか。

(委員)

メール配信や防災・災害情報の発信は、災害発生時にどれだけの人に見てもらえるかという部分に焦点を当てるべきではないか。

今回はツイッターやフェイスブックで情報収集ができた。道路状況や食料品の有無を動画も活用して発信している人もいた。40 代くらいまでの人はこういったツールの活用で情報を得ている人が多いが、一番の課題は高齢者への情報発信と考える。

(委員)

今回の大雪では問い合わせの電話がケーブルテレビにきた。地元ケーブルテレビであれば情報があるだろうと考えた高齢者は多いのではないかな。詳細な情報が行政チャンネルやケーブルテレビと協力して発信できれば高齢者にとっては良いのではないかな。

(会長)

災害時の情報発信は、先ほど副会長の発言にある「大きな柱」の一つとなりうるのではないかな。懇談会で定めた4項目を含め、今回意見のあった項目6、7について次回は評価を行うこととしてはどうか。

(副会長)

現在の情報化基本計画・アクションプランでは各論すぎる。第三次基本計画の策定を念頭に置くと、「大きな柱」として「行政のICT利用」、「防災」「地域医療」「市民と行政の協働」の4つは必要である。この大きな括りの中で上田市の方向性を出し、さらに必要であれば「観光」や「産業」といった括りを加えていけばよい。

次回はこの括りに該当する項目を事務局から提案してもらい、それを評価すればよいのではないかな。

(事務局)

ほかに選択する項目の候補はあるかな。

(副会長)

事務局に任せてよいのではないかな。

(事務局)

それでは次回は評価のスタートという位置づけになる。評価は担当する課へのヒアリング等を行うことによりお願いしたい。

(2) 情報プラザについて

(事務局)

資料2「情報プラザ構想」を用いて説明。これは前委員会等で頂いた意見をもとに構成したものであり、庁内で合意される前の段階である。

市民と行政の互いのコミュニケーションが求められている現状を踏まえ、市民生活向上につながる新たな上田モデルとしての情報総合機関「情報プラザ」を構築する必要がある。

この構想において、情報プラザとはリサーチ(R)、プロデュース(P)、シェアリング(S)の3つの機能のサイクルにより、情報を介して市民と行政との信頼関係を築くためのマーケティングを行う機能性を重視した情報総合機関と定義している。

さらに組織としてプロモーション・リサーチ・メディアを担当するシティセールス部門を設置し、基本戦略・重点施策を中心に事業展開を図りたいと考えている。

(会長)

何か意見はあるかな。

(委員)

以前の構想と比べだいぶ良いものになった。ただ、情報プラザという響き、情報というものはそこに実体がない。現在の基本方針では、「行政へのクレームのはけ口」となってしまう恐れがある。私は情報プラザというものは、一つの機能だと考えている。行政と情報が一つになって地域の課題を解決していく機能を目指してはどうか。

まちづくり拠点の機能が情報プラザとなればよいと考えているが、ただ縦割りのみではできないわけではない。もうひと踏ん張りできればもっと良い構想になるのではないかな。

また、プロデュースは結び付けるだけのプロデュースではなく、市民が主体的に動ける、あるいは市民を主体的に動かすといった機能にすべきだと感じる。

(副会長)

クレーム処理ではなく、情報プラザに「情報を集める」「情報が集まり、市民が情報を得ることができる」という部分は良いと思う。ただ、まちづくりまで構想を広げてしまうと情報プラザの位置付けが曖昧になってしまう。情報プラザは ICT を中心に考えてよいと思っている。プロデュース・リサーチ・シェアリングの特徴を際立たせるべきではないか。

(事務局)

事務局としてもクレーム処理や単なるヒアリングといったものではなく、事業やイベント等での意見・感想等をリサーチし、その事業やイベント等への市民・参加者としての観点からの意見を集約できる機能を想定している。

(副会長)

情報プラザの構想策定に当たり、プロジェクトとして成功している事例の調査をすべき。行政・民間を問わず視察を行うのもよいのではないか。

(委員)

情報プラザで一番重要なことは職員の意識改革だと考えている。クレーム対応は各部署で行うべきで、情報プラザの組織へクレーム対応を任せるようではいけない。

(委員)

これは本庁に一部署を作るイメージで良いか。

(事務局)

部署とすれば一部署であるが、各地域自治センター等と連携していく予定である。

(委員)

ICT の利用が難しい世代への対応も考えないといけない。そういった人達が「情報を出す」「情報を受け取る」といった部分のサポートも情報プラザの機能に必要である。

(事務局)

実体としての「窓口」も必要だと考えている。

(副会長)

シェアリングする情報が庁内から提供される情報だけでは情報プラザとして足りない。加工された情報がシェアリングされるだけではなく、生データ、オープンデータをそのまま発信するのもよい。

(事務局)

そういった情報に対するニーズも把握したい。

(副会長)

「生データを登載し、必要とする人がデータを加工し、更にデータを追加する」といった考え方も重要ではないか。行政が費用を負担する必要はない。

(会長)

情報プラザ構想・基本方針の絵の描き方も双方向のイメージに修正してはどうか。現状だと一方向の矢印が誤解を招いてしまう。

この情報プラザ構想の案件は、今後も引き続きご検討願いたい。

4 その他

(1) ソーシャルメディアの利活用に関する上田市ガイドラインについて

(事務局)

資料「ソーシャルメディアの利活用に関する上田市ガイドラインについて」を用いて説明。

先日的大雪で使用したツイッターは臨時で運用を行った。現在、災害防災情報を発信するか、その他の情報も併せて発信するか検討している最中である。

(委員)

市のメール配信は庁舎以外から発信できないのか。先日の大雪を考えると、庁舎にたどり着けない場合にも情報を発信する手段が必要ではないか。

(委員)

情報収集にはツイッターやフェイスブックで各地域の情報を得ることができる。市もそういったシステム、体制を作ったらどうか。

(会長)

緊急時はいろいろな情報が錯綜してしまう。ガイドラインどおりに行うのは難しいのではないか。

(副会長)

臨時運用されたツイッターは、一方向の情報発信ということではあるが、ソーシャルメディアの活用を始めてみるということが重要である。

(会長)

以上についても、意見等あれば連絡願いたい。

5 閉会（高橋会長）